

## 大目標 5 産官学金連携による社会的な健康課題への取り組みを推進します（ヘルスケア・ウェルネス戦略）

### 1 市の現状・課題

日野市では、健康事業が行政主導で行われており、地域の資源（技術や人材）が活用できていない現状があります。若い世代に焦点を当てた20～40歳代の健康づくりや運動習慣への取り組みの事業が少ない現状があります。市内及び近隣の大学、企業等と連携を拡充し、若い世代に適した健康事業を充実させていく必要があります。

市民が健康で、元気に活躍ができる社会の実現のため、大学、企業等との連携による健康事業への取り組みが必要です。

また、現在、地域諸団体（自治会、地域包括支援センター、老人クラブ、PTA、市民サロン、社会福祉協議会、社会教育センター、自主グループ等のグループ）に対して健康教育、運動事業を実施しています。

今後の課題として、自治会、社会福祉協議会との連携の充実により、新しい団体との連携による健康事業の推進をしていく必要があります。

### 2 今後の取り組み

1. 大学等と連携し、健康施策に取り組みます。
2. 企業との連携による健康課題を推進します。
3. 地域諸団体との連携による健康事業を推進します。

\* 「日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にて推進します。

## 大目標 6 国保・医療レセプトデータの利活用による疾病 予防を推進します(ヘルスケア・ウェルネス戦略)

### 1 市の現状・課題

国では、「国民健康保険法に基づく保険事業の実施等に関する指針の一部改正について」(平成26年3月31日付け保発0331 第22号 厚生労働省保険局長通知)により保険者は、レセプト及び健康情報等の分析による健康・医療情報を活用し、PDCAサイクルに沿った、効果的かつ効率的な保険事業の実施を図るため、保険事業実施計画(データヘルス計画)を策定し保険事業の実施及び評価を行うこととなりました。

これを受け、市では長期的な視点で、どのように医療や介護に係る費用を軽減し、高齢者になってもなるべく医療や介護に頼らずに、充実した生活が送れるような地域社会を実現できるかを考え、平成26年度にヘルスケア・ウェルネス戦略を策定し、市民の健康寿命の延伸、住み慣れた地域で生き看取られる暮らしの環境の整備といった施策に取り組んでいます。今後の事業を効果的・効率的に進めていく上でも、日野市民の医療の現状把握、課題整理が必要と考え、日野市国民健康保険被保険者の医療レセプト・健診データの分析を実施しました。

このデータ分析結果を活用した事業計画、実施、評価等の取り組みが求められており、今後、更なる被保険者の健康保持増進に努めるため、保有しているデータを活用しながら、被保険者をリスク別に分けてターゲットを絞った保健事業の展開や、ポピュレーションアプローチから重症化予防まで網羅的に保健事業を進めていくことが必要です。

特に、生活習慣病予防には若いうちからの生活改善と重症化予防が重要なため、若年者への動機づけや、治療が必要な人が早期に治療を始められる体制作りが必要です。

### 2 今後の取り組み

1. データ収集の継続と分析情報の共有を推進します。
2. データヘルスによる疾病予防を強化します。

\* 「日野市国保データヘルス計画」にて推進します。

## 大目標7 歩きたくなるまちづくりを推進します (ヘルスケア・ウェルネス戦略)

### 1 市の現状・課題

「歩きたくなるまちづくり」をすすめるため、安心して歩ける環境、外出を促す環境を整備することにより、自然と外出してしまう、「安心と魅力あるまち」を目指しています。

「地域のお宝」に設置した看板や、道路上のサイン等、訪れた人が少しでも歩きたくなる仕掛けをまちの中に設置し、楽しみながら健康づくりをすすめていくことが必要です。また、ウォーキング事業の参加者拡大に向け、市内の身近なコースや歩行距離など、多様なウォーキング事業をとおして、多世代に向けた取り組みが必要です。

### 2 今後の取り組み

1. 歩きたくなるまちづくりの仕掛けを継続し強化します。
2. 歩きたくなる機会を創出します。
3. 歩きたくなる環境を整備します。

\*各課の事業計画にて推進します。

## 大目標 8 食育を推進します (ヘルスケア・ウェルネス戦略)

### 1 市の現状・課題

食育はあらゆるライフステージにおいて重要であり、各ライフステージに応じた食育事業を実施していく必要があります。

子ども達に対しては、日野産野菜を使用した給食を「生きた教材」として活用するほか、農業体験によって食の循環についての理解を深めさせるなどの事業展開を図っています。また、妊婦や保護者に食育の重要性を周知し、高齢者には低栄養やロコモティブシンドローム等の問題を提起しながら事業を展開していますが、食育に関心の低い人々が、自ら食に対する自己管理能力をつけていくためには様々な工夫が必要です。

一般的に健康への意識は高くなってきており、事業への参加が困難な方へは、手軽・気軽に情報が得られる、スマートフォン等を活用した情報発信を検討し、広く市民への周知を図っていくことが重要です。

### 2 今後の取り組み

1. 家庭における食育を展開します。
2. 保育園、幼稚園、学校、児童館などにおける食育を推進します。
3. 地域における食育を推進します。

\* 「日野市食育推進計画」にて推進します。